

一般質問

みなさんの生活にかかわる大切な内容について質問しました。

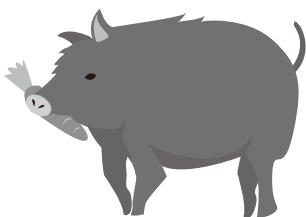
杉村「いのしし対策本腰を入れて早急に取り組む事案だ!」 町長「最重要課題として取り組んでいく必要あると認識している」



総務産業常任委員
有明広域行政事務組合議員

杉村博明

Q 今回2つの質問を行う。まず、近年イノシシによる被害が急増しているが、被害対策を町はどの様に考えているか問う、本腰を入れて早急に取り組む事案と思うが、31年度予算増額の予定などはあるか問う。また、南関町だけでなくこの問題は、近隣の市町との連携として広域的な問題だと思うが、南関町が率先して対策協議会を立ち上げることは出来ないか尋ねる。



A (町長) 猪の被害や出没報告が多数あっており、捕獲頭数としては毎年300頭を超す捕獲を行っているが11月末時点で前年同期に比べても上回っている状況で、猟友会の捕獲隊の方々も懸命に捕獲活動に取り組んでおられ、鳥獣被害対策につきましては、町としても最重要課題として取り組んでいく必要があると認識している。現在行っている捕獲、防護対策はもとより住民の皆様への啓発活動や集落での取り組み、動物には国境がなく近隣市町を含めた広域的活動など総合的な取り組みとして行っていくことが重要だと考えている。

新年度の予算については、捕獲隊員の増加が見込めることもあり、捕獲用の罠の購入費、防護柵設置補助は増額も含め検討している。協議会の立ち上げについては、現在玉名地域鳥獣被害防止対策連絡協議会や有明定住自立圏、玉名の定住自立圏作業部会において被害や捕獲状況等の情報交換を行っており、玉名地域定住自立圏の農林水産部会の中でも合同捕獲の実施に向けての協議を進めているところであるが、実施までには至っていない現状であり、このような枠組みで協議を進めているが、南関町が率先して対策協議会を立ち上げる考えはないが、各市町においても同様の課題があることは認識しており、重点的に取り組むべき課題として今後の会議等において様々な情報交換を行い、有効な対策の実施に向け協議を進めていく。



Q 続いて、グローバル化に対応した各種看板、案内板等の設置状況について、国際化時代である今、町の英語等による表示板、また看板等の設置はされているか、また新庁舎建設に伴う庁舎内表示に英語等の表示計画はあるか問う。



A (町長) 町内の外国語表示看板の設置状況については平成26年度地域活性化、地域住民生活等緊急支援交付金地方創生先行型を活用し、海外からの観光客に対応した観光案内の強化を行う目的で日本語、英語、韓国語、中国語の4か国語看板を設置しており、設置場所は豊前街道南関御茶屋と南関城跡、古小代の里公園の3カ所に設置している。また、庁舎建設に伴う庁舎内表示に英語等の表示計画は基本設計時点から英語の表示計画は行っていない。

むすび 猪被害対策は農家の生産向上にも影響が甚大なものであり、町として真剣に取り組んで貰いたい。



一般質問を議会だより山郷で1,300字でまとめるには非常に難しいことであり、住民の皆様には是非議会議事録をインターネット等により閲覧をお願いします。むすびについては私、一議員の想いを述べています。



副議長
総務産業常任委員

境田敏高

境田「もっと多いのではないか」 福祉課長「把握の充実に図っている」

Q 通学路において、大型車両の通行が多い・車両の速度超過での危険箇所、また必要と思われる場所に横断歩道がなく、白線が消えて見えない所、歩く幅員が10センチも満たない所も見受けられる。

教育委員会は通学路の危険箇

所の把握、対策が必要な箇所については対策案を検討し、内容に応じて警察・道路管理者などに改善要望を行いなさいとなっている。通学路の安全対策はどのようになっているか。

A (教育長) 町全体の通学路、要対策箇所一覧表に示された43カ所のなかから改善改良の14カ所、改善実施中の17カ所とまだ対応できていない危険箇所12カ所について、本年度合同点検実施箇所を6カ所に絞りこんだ。歩道整備等が実施中でもまだ先に進んでいない箇所も数多くあり、問題点を明らかにしながら引き続き関係機関等との連携を密にしながら改善に努めたい。



Q 近年は脱「ゆとり教育」で学習内容が増え、また見やすいように教科書の大判化などで持ち物が重くなっている。2年後の教科書では新学習指導でページ数はさらに増えると言われている。

文科省は今年の9月、カバンの重みに配慮するように各教育委員会に通知がだされたが、負担軽減の取り組みは行われているのか。

A (教育長) 10月の町校長会のなかで議題の一つとして協議を行い、各学校での弾力的な対応等をお願いした。

Q アメリカの小児科学会では「通学時の学校に持って行く重さは子どもの体重の10～20%を決して超えない事」と提言しています。私も先週、小学3年生の持ち物の重さを一週間調べてみた。週



平均4.2キロ、重いときで5キロであった。町は調査されているか。

A (教育長) 実施はしていない。

Q 日本は経済大国でありながら、7人に1人の子どもが貧困にあえいでいる。また平成28年度厚生白書では65歳以上の高齢者の5人に1人が生活保護世帯である。その割合は生活保護世帯の5割を超えている。私達議員も現状を把握しなければならない。そこでわが町の生活保護の実態と課題を尋ねる。

A (町長) 平成30年11月1日現在では49世帯となっている。保護世帯に占める一人暮らし高齢者と高齢者を含めた一般世帯の割合が73.5%になっており、今後も高齢者世帯が増えるのではないか。



A (税務住民課長) 平成30年度の国保世帯の所得なしが438世帯、うち無年金世帯が177世帯である。今現在で、33万円未満が690世帯。それから100万円未満が1,067世帯、それから200万円未満が1,431世帯である。

A (福祉課長) 民生委員の方々などと連携を密にして、状況の把握また民生委員の方を通じての相談体制の充実に図っている。

まとめ 通学路の歩道は早めにすすめるべきである。どこにいても、こどもは平等でなくてはならない。

重すぎる通学ランドセルに関しては、健康被害がないように負担軽減などの改善を今一度進めるべきである。生活保護は本当に困っている人には早目に生活保護制度を進め、一日でも早く自立できるようにすべきである。貧困の連鎖を断ち切り、未来の子どもたちを輝けるものにしなくてはならない。

年金をもらっているから、持ち家があるから保護は受けられないなどの誤解が生じないように制度の周知徹底をすべきである。わが町でも無年金・所得が0の世帯などの厳しい現状に驚いた。わが町から「おにぎりを食べたかった」と最期の叫びにならないように広報でも知らせるべきである。

一般質問

みなさんの生活にかかわる大切な内容について質問しました。

打越「農業の振興、農地の保全、所得向上につなげる対策は」 町長「集落組織での農業経営の取り組みが一層必要な状況である」



総務産業常任副委員長
監査委員

打越潤一

Q 農業の振興、農地の保全について現状と対策を尋ねる。

A (町長) 農業の振興を図るうえでは、圃場整備を推進しながら、担い手の確保と安定生産ができる作物や所得率の高い高収益作物の導入が必要である。後継者不足等を補うため集落の組織での農業経営の取り組みが一層必要な状況のなか、農事法人よなだ設立され、町のモデル地区となり、他地域においても組織の設立に向けしっかり取り組んでいく。

農地の保全等については、現在町内18カ所新規に進めている圃場整備での取り組み、また中間地域等直接支払い交付金や多面的機能支払交付金などを活用した集落ぐるみの活動、荒廃農地の再生として国県の耕作放棄地対策事業なども活用していく。



Q 所得向上につなげる対策を尋ねる。

A (町長) 所得向上については、南関町はナスが国の指定産地となっており、夏秋ナスの生産者27名で2.7ha、今後も高収益作物の推進が必要であり、JAの協力を得ながら一緒に取り組んでいく。加工品開発センターが開館したので、施設の有効活用により所得の向上にもつなげていただきたい。

Q 河川の維持管理の現状と対策を尋ねる。

A (町長) 平成30年度の河川維持費については、300万円の予算で要望書をもとに護岸補修、土砂掘削、河川の支障となる竹等の伐採を実施している。



また県からの河川管理維持費を財源として町道等環境整備補助金の制度も設け、地元の維持管理費用を助成している。県が管理

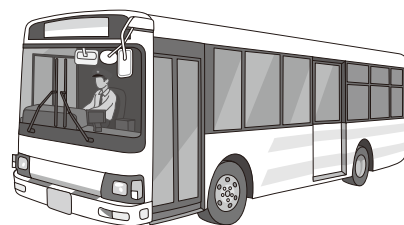
する河川については、地元要望を県へつなぎ、対応をお願いしているが、管轄が広範囲に渡り予算も限られており、要望全てに答えられていない状況にある。

Q どこかでもう一步進めていかないと同じようなことの繰り返しになると思うので、もう一步進めていくという前向きな考えをお願いしたい。

A (町長) 行政もやるべきところしっかりやる。地域の皆さんが共同で仕事をされているところはある程度できている。町も今年度からは組織のなかに業務係をつくり、今までできなかった部分の道路とかいろんな草刈り等も対応はしている。まだ1年目で完全な対応はできていないが、予算面、人的なものも対応できるように今後もしっかり前向きに進めていきたい。

Q バスの利用が減り、事業者も採算が合わず近隣自治体の補助を受けて運営している状況にある。現状と対策を尋ねる。

A (町長) 産交バス熊本線も路線再編の計画があることから、現在直通で熊本交通センターにいく路線を植木で乗り換えを行うとともに、現在の12便運行を2便減便し、10便にされますが補助金額は逆に265万8,000円増額される計算となっている。この計画は来年10月から実施されるということである。町としては現在の利用者数の推移やバス利用者のほとんどが町内移動で利用されていること、熊本までの移動手段は高速バスや玉名駅でJRに乗り換える等の手段もあるので、地域公共交通協議会にお諮りし、これにあわせて熊本線は廃止し、乗合タクシーの運行充実に努めていく計画を進めてまいりたい。



まとめ 少子高齢化社会を迎え、地域を守る対策も不安を感じるが、ともに協調し合いよりよい南関町を目指して農林業の振興、河川の整備、公共交通の確保等、健康で安心安全な地域づくりを行政と共に推進していきたい。



議会運営委員会副委員長
総務産業常任委員

立山秀喜

地条件の悪さなど様々な要因があると思う。状況については、年一回農業委員会による農地の利用状況調査が実施されており、29年度では423haが荒廃農地と判断されている。

A (経済課長) 平成28年・29年度を示したところであるが実際は増えているのではないかと想定している。



Q 水田畑合わせた所の面積であると思うが、畑については竹林がはいつてきたりクリ園が山のような状況になったりして、実際は増えてきているように思える。水田については、100haの圃場整備が出ているが、小さい面積の所、道便利の悪い所、山際の不整形の水田が荒れている。一回荒れると中々再生が難しくなるので、何か施策はないか。

A (町長) 5ha以上は補助事業に乗るが、それ以下については町の単独事業で整備していくのは厳しい状況であるので、何らかの補助事業に結びつけることが必要であるので検討させていただければと思う。



Q 耕作放棄地の増加と切り離せないのが、有害鳥獣の対策である。我が町で一番の被害が出るのは猪ではないかと思う。農作物の被害は、共済組合が把握

立山 「荒廃地の増加と有害鳥獣の被害が増加しているが状況と対策は？」 町長 「被害は前年を上回っている。捕獲だけでは被害を減らすことはできない」

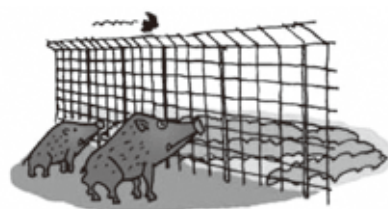
Q 農業問題で農地の荒廃が以前より進んできているようだが、原因と状況、そして対策を訪ねる。

A (町長) 荒廃地や耕作放棄地の発生原因として考えられるのは、農業従事者の高齢化による労働力不足、生産性の低さ、後継者不足、土

している29年度で130万円の報告であるがこれは共済組合に報告分であり人的被害・物的被害は今までに報告は何軒ぐらいあるか把握しているか。又被害調査をするように前回の議会を出ていたがどのようになったか。

A (経済課長) 人的被害は聞いたことがないが、車に衝突されたことは数件聞いている。被害調査ではないが防護柵の設置工事を行っている。正確な被害調査については難しい所があるので今後検討していく。

Q 農家だけでなく一般住民からも被害が出ているので町民ほとんどが関心を持っているのではないか。全国的に被害が出ているので南



関町としても被害調査をする必要があると思う。せっかくだから30年度に被害調査のとりまとめをするならばどうか。又大型の囲い罠の設置を試験的に検討したらもっと多くの捕獲ができるのではないか。

A (経済課長) 被害状況については、今年度の調査は厳しので来年度から被害状況の調査は検討していきたい。

A (町長) 町の取り組みとしては、まず町内の被害状況の把握をすることが必要であり、その後モデル的にも設置する必要があると思う。どこに何基設置するか、担当課を含めて検討していきたい。

まとめ 耕作放棄地が増えていけば、猪の被害も増えてくるので、町あげての対策を望む。大型の箱罠については、天草や天水地区にも防除の成功事例があるので、今後研修や勉強会など聞き、早めにモデル地区をきめ、町あげての対策に取り組んでもらいたい。



北原「学校はブラック!? 先生は聖職者!?働き方改革が叫ばれる中、町内教職員の労働実態について尋ねる」



文教厚生常任副委員長
広報常任委員

北原浩一郎

Q 子どもたちを育む教育の場である学校。毎晩遅くまで小・中学校の職員室の電灯が点っているのをご存知か？それは当たり前か？町内各小中学校の働き方改革の取り組みについて尋ねる。

A (教育長) 教職員の意識の改革を始め、各学校での定時退勤日の奨励や朝会や職員会議の削減、バーコードによる時間管理を実行。部活動では小学校は社会体育へ



移行し、中学校には2人の部活動指導員が配置された。またタブレットや校務処理の新しいソフト等も導入され、ICTの環境整備も一層進み、この積極的な活用は、各学校の働き方改革にも大きく貢献するものと期待をしている。

Q 超過勤務80時間＝過労死ライン。この超過勤務時間は、万が一の際の公務災害認定に重要な証拠となるので、先生自身の身は自分で守る、管理職の先生方も同僚の先生方を守る為にも正確な時間管理が大切である。町内教職員のひと月あたりの超過勤務が平均80時間超の実態について尋ねる。

A (教育長) 超過勤務の一つの目安となるひと月の総勤務時間が80時間を超える人の平均人数で見ると平成29年度は小学校で1人強。中学校は6人強。平成30年の10月までの期間では小学校が1人強。中学校は6人である。

Q 南関中で6名の先生が毎日4時間、夜9時まで学校に残って仕事していることになる。また小・中ともに毎日2時間残業されている先生は半数に近い。教職員の世界には、残業手当という概念がない。残業は、あくまでも自分の時間を使って奉仕をされている。教職は聖職者と言われる所以である。この先生自身の聖職者という意識、周囲の見方がこの労働実態を作ってきたとも言える。



先生も一人の人間。今学校現場は教育環境の変化、ICT化、多様な児童・生徒への対応、そして保護者との対応など本当に自分を越えないといけないそういう場面が多くあり、ストレスは半端ない。やりがい、志だけではやっ

ていけない時代である。今こそ先生方を守る環境作りが本当に求められていると思うが。

A (教育長) メンタル精神的な疾患で退職されたり、様々な理由で早期退職されている。しかし、教師冥利につきること多く、やりがいにつながっているのも事実である。

Q 現在の学校における労働安全衛生への取り組みについて尋ねる

A (教育長) 教職員にはどの職場以上に健康で安心してやりがいを持って働ける職場環境が必要である。その為に



も風通しのよい教職員組織でなければならない。労働安全衛生の考えのもとに更なる意識改革、ICTの活用やスクラップ&ビルドを大切に担当業務改善等の取組を加速させる。働き方改革にも繋がるコミュニティスクールの推進も更に教職員の理解周知を図っていく。

Q 総括安全衛生委員会を組織すれば、教職員数50人を超え、産業医の無料相談を受けることが可能となる。個々の学校の問題を出し合って協議対応できる委員会が南関町にも必要ではないか。

A (教育長) 校長に状況を確認しながら、新たな組織を作ったが良いという判断になれば前向きに検討していきたい。

まとめ 先生方がいきいきと元気に働ける労働環境を整えることが南関町の子ども達の健やかな成長へとつながる。心身ともに健康な先生がいる南関町の教育環境を実現していただきたい。



南関町がまだす隊 & 広報委員

「若い人の農業が全国的に注目されていますが、農業の職についてよかったことは？」

- 良い作物が取れた時。
- この隊でみんなと会えたこと。
- 一人でなく、みんなと話し合える。
- 農業を始める若い人が増えて、この隊のメンバーが増えていること。
- 環境が揃えば、もっと若い人は増える。



「どんな環境が整えば、新規就農者は増えますか？」

- まず土地を探すのが大変。作りにくい土地はあるが、良いところは少ない。水はけが悪いとか、ハウスが立てられないような形をしている。
- 区画整備が進めば違ってくる。畑の区画整備も。近郊に比べ南関町は、農地整備が進んでいない。
- 就農時の自己資金の負担が大きい。資金を借りる制度はあるけど、最初の投資がかなりかかる。今年はすごい赤字。
- 青年就農給付金(150万円)だけでは負担が大きい。制度資金は帳面上でノルマがあるから、プレッシャー。一人で頑張れとなっている。行政にはそういうところをサポートできるようなスペシャリストがいてくれたら助かる。アドバイザープラス青色申告などに詳しい人がいたらいい。
- 農機具など初期の費用負担を少なくすること。農機具は中古を回すとか共同で使うようにしな



平成30年3月議会号(第49号)から新しく始まったコーナーです。

広報委員会では、町民の皆さんからのさまざまな生の声を聴き、議員活動の活性化と住んでよかった町づくりの一助になればと考えています。

このコーナーは、登場団体の統一見解でなく、登場された方達の声であり、これ以外にもいろんなご意見があると捉えています。読んで頂いてから「こんなこともあるよ」「こうしたことも要望したい」など、登場された方達だけでなく、読んで頂いた方達の生の声も議会にたくさん届くことを期待して、このコーナーを始めました。

いと。離農した農家で眠っている農機具も多い。貸し借りするシステムを作ればいい。

「今後、南関町の農業はどうあるべきと考えますか？」

- 農家と言っても、畜産、コメ農家、施設園芸、露地野菜それぞれ、こうしてほしいという意見は違ってくる。
- 農業は町の基幹産業って言いなはるばってん、その結果が見えてこない。
- 若手にとか、がまだす隊がいるからではなく、町全体で支えてゆかんと南関の農業は衰退していく。5年後は目に見えて荒れていく。農業やっているのは自分たちだけじゃない。田も畑も山も地域から自分たちに管理してくれて言われているが、現状は厳しい。
- 兼業農家の方達も、いろんなところに出てきてもらわんと、逆に自分たち(専業農家)がおるけんって辞めていく人たちがいる。自分たち(専業農家)が作るけんよかろうて。でも全部できるわけじゃない。集落営農の構成員の中には、兼業農家の人たちも積極的に入ってもらったがいい。自分たちに何でも任せられてしまうことになったら、会は成り立たんようになってしまう。やはり地域全体で立ち上げた会は、みんなと一緒に守っていくことが大事だと思う。



「イノシシ・アナグマ対策はどう考えていますか？」

- 今は、個人負担で自分の所だけ守る状態。じゃ

なくて集落で、全部を囲うことにせんと難しい。小作で違う地域に行くと、電柵を仲間外れにされるのが現状。だけん猪は自分のところに集中する。町でまとまってせんと。

- 専業農家だけでは、猪の駆除はできません。農業被害だけでなく、小学生が通学中に出くわしたりしている状況も出てきており、早く駆除業者を入れてほしい。

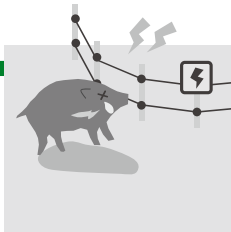


「農業をされていて大変なことは？」

- 農家は、時間が自由なイメージで見られるのか、PTAやいろんな役員をよく頼まれる。現実には自然が相手の仕事なので、休みもとれず、天気と共にすぐに対応しなくてはならず、時間的余裕はない。農家だけん地元貢献は、もちろんするけど「時間の融通できるでしょ」と言い方されるのが悲しい。でも、サイレンになったら、みんな責任感があるから、仕事の途中で手が離されん時でも、消防団活動に出ていく。その分の仕事は遅れ、取り返すのは大変。

「行政に要望することは？」

- これからの農地整備は、電柵込みの事業で進めて欲しい。
- 2年後就農する息子が、こんな狭か田畑は嫌としか言わない。広くて真四角の田畑じゃないと。でもそんな田畑はない。これからの基盤整備は、段差がついてもいいから、より広い田畑を作って、それを仕切るようにすることを考えてほしい。また個人の田畑を集約すること。あちこちに点在しているのを、まとまると後々の利用がしやすい。ハウスを建てることも可能になる。
- 新規就農者への資金面、制度面、農地確保の支援策が必要。
- インフラの整備、農道の整備も遅れギミになる。
- 人手が足りない。外国人を雇いたいと思っても、年間雇うのは難しい。作物によって農繁期もばらばらだから、町で外国人の人材センターを作って、人を回せたらいいと思う。



- 南関町は企業誘致に熱心だけど、農地整備は隣町に比べると大きく遅れている。短期集中で一気にやってもらいたい。
- 「生かさず、殺さず」の政策でなく、本気で農業を成長させる政策を考えて欲しい。

「若い人の投票率が低いのはどうしてかと思いませんか？投票率を上げるにはどうしたら良いと思いませんか？」

- 選挙や議員に魅力がない。関心がない。
- 国会議員の眠っている姿が TV に映ると興味なくなる。
- 選挙中にいろいろ言っても、その後の結果が見えてこない。
- 若者・現役世代の投票率を上げたいなら、その世代向けに政策を出してほしい、そして分かりやすく伝えて欲しい。
- わざわざ投票場まで行かない。自宅で投票できる方法も考えたらどうか。



「生の声を聴く」を終えて・・・

町の基幹産業である農業に従事される若者世代の会に参加し、将来展望を聞けるかと思っていましたが、生の声は厳しい意見が飛び交いました。その中で印象に残ったのは・・・

- 専業農家の若者達がやってくれるだろうと期待だけを投げられても、重すぎる。
- 兼業の人たちも一緒に考え行動してほしい。
- 行政はもっとリードして、手を差し伸べてもらわないと、重みでつぶれる。

といった SOS に近い生の声でした。そんな不安な声が出ないよう、議会は現状の課題だけでなく、5年後、10年後、20年後を見据えた南関町農業ビジョンが見えてくるように、農業者の方達との対話の中で、行政と一緒にになり、農業政策に取り組みねばならないと考えさせられました。

「生の声を聴く」コーナーはただ意見を聞くだけでなく、この声を元に議会活動につながるように、その結果が見えてくるように活動をしていかなければならないと痛切に感じました。

広報常任委員会

※お詫びと訂正…前号同コーナーで「北島さん(三小)」(正)を「北原さん(三小)」(誤)と掲載してしまいました。申し訳ありませんでした。

あなたが考える、南関町の未来

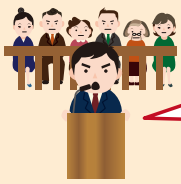
南関町に住む18才未満の人たちに、町の未来を語ってもらうコーナーです。



さるわたり ゆ な
猿 渡 由 菜 さん
(南関中2年)

私は、一月から南関中学校の生徒会長を務めています。
私は、生徒会役員選挙の時に、立ち止まってあいさつをするということ
を公約として掲げました。私にとってあいさつは、人と人が交流し、笑
顔を増やすことのできる大切なものです。今、南関中では、立ち止まって
あいさつをする人が増えてきています。でも、まだあいさつを全くしない
人がいるということが課題です。そこで、私たち生徒会が率先して立ち止
まってあいさつをしたり、呼びかけたりしています。
また、地域の人とのあいさつも南関中の課題だと考えます。地域の人にも
お互いが笑顔になれるような気持ちよいあいさつを心がけていきたいで
す。このようなあいさつを増やし人と人がつながるあいさつがとび交う明
るい南関町となるよう私も率先してあいさつを頑張っていきたいです。

議会傍聴しませんか



12月定例議会の傍聴人数はの
べ14人でした。
12月10日(月):7人、12月11日(火):6名
12月12日(水):1名

次回は、3月定例議会

- ・どなたでも傍聴できます。
 - ・定員30人
 - ・議会入口の傍聴人受付簿に、住所・氏名を記入します。
- お問合せ先：議会事務局 ☎57-8508

ティーブレイク



「命拾いした木」

町民グラウンド南西側に立つ2本の木の謂れを紹介しま
す。ケヤキと楠ですが、夏にはグラウンドを利用する人に
木陰、憩いの場を提供してくれています。西側のケヤキ
は昭和55年の小原団地建設に伴って移植されたもので
す。一方の倉庫横の楠は昭和62年、県による関川河川
改修の際、支流の琵琶瀬川の一部も改修され、その河岸
にあったものを伐採に忍びないとして、町の負担で移植
されたそうです。何れも町の粋な計らいで生き延び、現
在に至っています。

切ってしまうと人の記憶からも消え、完全に消滅してい
たでしょうが、助かったことでこの先、何十、何百年と町
民に安らぎを与えてくれるでしょう。翻って、人の世を見
たとき、何と自死の多いことか。とりわけ無限の将来性を
秘めた青少年の自死は悲しみの極みです。落葉樹は寒さ
から自身を守るため葉を落
として冬を越します。辛抱
して生きるほど人生は長く
ないので、..人間もきつ
い時は身軽になって冬を越
したいものです。(鶴地)



議会日誌

■10～12月

- ・10/4(木) 議員研修会
- ・10/11(木) 総務産業常任委員会、文教厚生
常任委員会、広報常任委員会
- ・10/18(木) 全員協議会
- ・10/23(火) 広報常任委員会
- ・10/31(水) 広報常任委員会
- ・11/5(月) 広報常任委員会
- ・11/8(木) 議員研修会
- ・11/9(金) 文教厚生常任委員会
- ・11/13(水) 広報常任委員会研修会
- ・11/15(金) 総務産業常任委員会
- ・11/19(月) 全員協議会
- ・12/3(月) 文教厚生常任委員会
- ・12/10(月)～12(水) 12月定例議会
- ・12/19(水) 広報常任委員会
- ・12/26(水) 広報常任委員会

■年間スケジュール

定例議会 4回……3月・6月・9月・12月
閉会中は、懸案事項を各常任委員会で調査
研究します。他に全員協議会や臨時議会、
陳情、請願に対する審査・視察・研修など
を行います。

□ 発行責任者
議長 酒見 喬

□ 編集(広報常任委員会)
委員長 中村 正雄
委員 北原 浩一郎

副委員長 西田 恵介
委員 鶴地 仁